



◆左の松浪小の校歌の歌詞は開校当時の学区の様子を私たちに伝えてくれます。一番の「光る麦のほ」「たかなく ひばり 友を呼ぶ」の歌詞からは、学校の周りには、ひばりが鳴きながら飛ぶ、麦畑が多くあったことがわかります。宅地化が進んだ今では想像もつかない情景です。

- 一、 光る麦のほ 青い空
たかなく ひばり 友を呼ぶ
ふくらむ胸の われらまた
手をつなぎあい はげまなん
松浪 松浪 小学校
- 二、 朝にあかねに さえる富士
妙なる調べ 相模灘
豊かにこころ 今日もまた
師を慕いつつ 学ばなん
松浪 松浪 小学校
- 三、 ひがし浪山 こけむして
八松のあと 夢濃し
文化の花の 匂い満ち
われらが希望 ゆるぐまじ
松浪 松浪 小学校

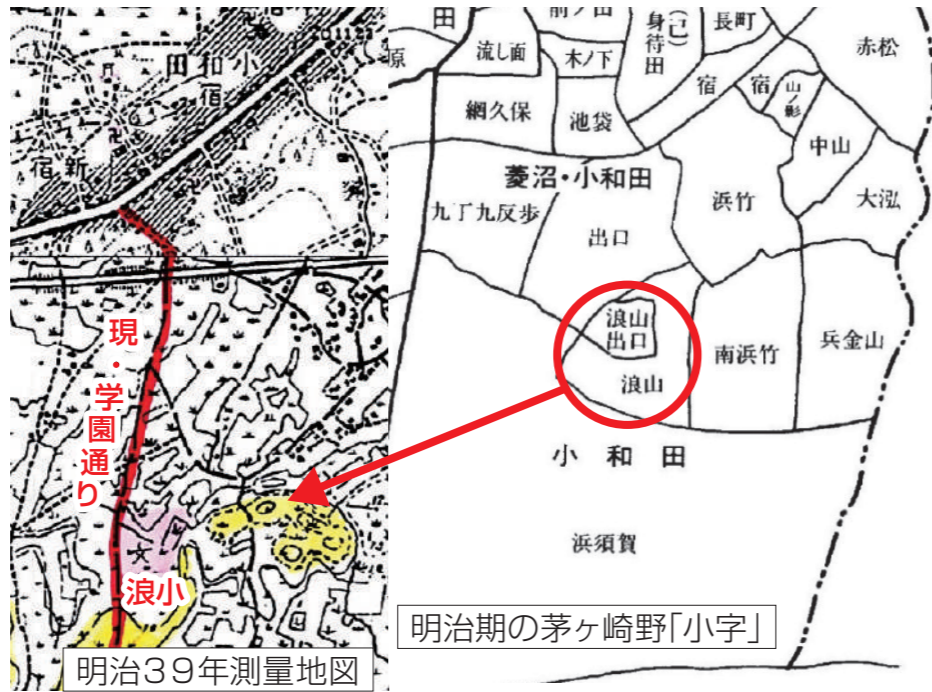
この麦畑で栽培されていたのは、大麦と思われます。当時の茅ヶ崎駅北側には「日本精麦」の広い工場(昭和19年に横須賀から移転)があり、駅のホームには大麦を焙煎する香ばしい香りが漂っていました。工場の跡地は、現在はロコスポート・湘南とモキチ・フーズガーデンになっていますが、かつての「日本精麦株式会社」の門柱は両社の入口に残されています。日本精麦に収穫した大麦を納める農家が、当時の茅ヶ崎には多くあったと思われます。松浪地区においても、畑ではサツマイモをはじめ、日本精麦向けの大麦が栽培されていたことでしょう。

◆校歌の三番にはよく見ると、あれ?と思われる歌詞が出てきます。「ひがし浪山 こけむして」という部分です。松浪地区に「山」なんてあるの?と、赴任して子どもたちの歌う校歌を聞いているうちに、疑問に思いました。気になり調べてみると「浪山」という小字(こあざ:現在の行政地名とはちがう、昔から地域にあった古い地名)があることがわかりました。明治時代の小字を記した地図によれば、松浪小の東一帯は「浪山」と記されています。地域の方にもお聞きしたところ、今の松浪小学校がある場所の東側が「浪山」ということでした。松浪小から小和田保育園南側の

「茅ヶ崎市指定保存樹林」がある一帯です。

また、学校の東門から桜道にでる道沿いには、畑から一段切り立つように高くなっている地形が、今でもはっきり残っています。明治39年の測量地図にも、高まりを示す場所が示されています。(黄色い部分)

こうした地域の特徴を取り入れた歌詞の作詞者は、松浪小学校校舎建設委員長を務められた小生(こいけ)第四郎さんでした。地域と共に子どもたちを育てていこうという教育理念がこめられた校歌だと思います。



★1000人を超える児童数の松浪小学校ですが10/21(土)無事に運動会を開催しました。児童はお弁当を持って1日の参加となりました。白熱した競技や演技の素晴らしさはもちろん、高学年の係活動で力を発揮する姿に感心させられ達成感いっぱいの日となりました。(松浪小学校PTA会長:山崎裕子)
★緑が浜小では入場制限なしで運動会が行われ、音楽家を招いての芸術鑑賞も開催することができました。しかし、コロナが終息してきたと安堵する間もなく、戦禍が世界を覆っています。この事態を子どもたちにどう伝えればいいのか、見識のなさを痛感する日々です。(緑が浜小P.G.T.会長 山田清機)

編集後記



令和5年12月15日発行(第30号)
発行:松浪地区まちぢから協議会
HP: <https://chigasaki-machiren.org/matunami/>
印刷:(有)仲手川印刷



会長あいさつ



松浪地区の皆様、いかがお過ごしでしょうか?ようやくマスク無しの笑顔で会話が出来るようになりました。

松浪地区まちぢから協議会主催の行事も、年内に予定していたものは概ね終わり、残すは11月26日の『松浪地区防災フェア』のみとなりました。

9月は、『市民集会』と『茅ヶ崎市地域集会施設連絡会研修会』を開催しました。研修会の昼食のコミカフェ特製カレーライスには、各施設から参加された70名余りの方々より、「美味しかった」と大好評をいただきました。

松浪地区まちぢから協議会 会長 前田 積

休日返上でご提供くださったカフェの皆様、ありがとうございました。

10月は、前々より準備を進めてきた『松浪コミセンまつり』を開催しました。朝は雨模様のなか虹が輝き、佐藤市長をはじめ来賓の方々から来られた時間帯には、すっかり雨も上がりました。河野大臣も来館され、大いに盛り上がったコミセンまつりとなりました。まちぢから協議会運営委員の皆様、地域の皆様、コミセン利用団体の皆様、松浪中学校吹奏楽部の皆様——当日は準備から後片付けまで、一日ありがとうございました。

今後とも松浪地区まちぢから協議会をよろしくお願いいたします。

令和5年度松浪地区市民集会



令和5年9月9日(土)、松浪地区まちぢから協議会主催「松浪地区市民集会」が松浪コミュニティセンターで開催された。参加者は、茅ヶ崎佐藤市長と市職員12名、市議会・

県議会議員5名、それにまちぢから協議会も含む一般参加者35名、計52名でした。住民皆さんからの意見・要望は、生活環境13件、防災対策4件、市民安全1件、その他1件でした。生活環境のごみ問題が3件、それに防災対策の4件はいずれも地域住民全体に関わる問題のため、今年度の主要テーマとした。行政からは意見・要望19件全てに対して回答が提出されており、「令和5年度松浪地区市民集会の回答」をまとめた回答集を、意見・要望提出者と市民集会参加者全員に配布した。

主要テーマに入る前に行政からごみ問題に関連して、昨年4月から実施されたごみ有料化の効果について「ごみ有料化に伴うごみ排出量の変化」の説明、5月に実施された「ごみ有料化及び戸別収集に関するアンケート調査」の速報結果、それに防災対策の一環となる「災害時の在宅避難の支援体制」についての報告があった。これ

松浪地区まちぢから協議会 書記 中井 汎

ら詳細は現在作成中の議事録に記載、市民集会回答集と同様に、松浪地区まちぢから協議会のホームページに掲載するのでご覧いただきたい。

また、冒頭に佐藤市長からは「これまではコロナ感染拡大のなか住民皆様の命と健康を守らなければならない立場から、いろいろな規制を設けて不都合なことをお願いしたが、コロナ禍も落ち着き街が動き出した。地域の活性化は地域皆様の協力があつてこそ出来ることで、行政もサポートをして地域を盛り上げていきたい。また、本日の議題についても皆様のご意見を真摯に受け止め、あしたへの茅ヶ崎の行政サービス向上につなげていきたい」(要旨)と力強いご挨拶をいただいた。



